

地域医療連携だより

やまびこ

発行日：平成26年4月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

第3回 地域連携講演会

・意見交換会の開催



岐阜大学大学院医学系研究科
消化器病態学教授
森脇 久隆 先生

平成26年2月22日（土）午後4時より、ひだホテルプラザにて地域医療機関・施設・行政等の皆様をお招きして、第3回地域連携講演会・意見交換会を開催いたしました。開業医の先生方等63名、当院医師・看護師等54名、総勢117名の参加がありました。

開会の挨拶では、棚橋院長より「高山赤十字病院の地域連携の現状」を紹介しました。続いて、岐阜大学大学院医学系研究科 消化器病態学 森脇久隆 教授による「慢性肝疾患の診療と病診連携」の演題でご講演がありました。

講演会終了後の意見交換会は、飛騨市医師会長 大高 征 先生に乾杯の音頭を取って頂きました。来賓の皆様にもご挨拶頂き有難うございました。会食をしながら皆様の談笑の光景もあり、予定していた時間が早く過ぎたように思えました。

日々、忙しい皆様方には、休日に時間を取って下さいました事、感謝いたします。有難うございました。



目次

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| ● 第3回 地域連携講演会・意見交換会の開催 … 1 | ● 放射線治療システム更新について …… 7 |
| ● 副院長就任挨拶 …………… 2 | ● 新任医師の紹介 …………… 8.9 |
| ● 第1回 在宅医療研修会開催 報告 …… 2 | ● 新任研修医の紹介 …………… 10 |
| ● 第15回 地域連携症例検討会 報告 …… 3 | ● 退任医師 …………… 10 |
| ● 第4回 糖尿病地域連携講演会 報告 …… 4.5 | ● 平成25年度 第4回地域医療連携検討委員会の報告 … 10 |
| ● ペインクリニック外来開設のお知らせ …… 6 | ● 編集後記 …………… 10 |
| ● 人工関節センター開設のお知らせ …… 6 | |

副院長就任挨拶



副院長兼 脳神経外科部長 竹中 勝信

平成26年4月1日、副院長を拝命いたしました竹中です。よろしく、お願いいたします。脳神経外科、脳卒中の領域を専門として診療を行っています。常日頃は、皆様にご支援をいただきまして感謝いたします。救急医療、急性期医療からプライマリーケア、介護保険までチーム医療を大切として楽しく取り組みたいと考えています。

地域一体とした生活習慣病の予防活動や再発予防に向けて、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等「なかよく地域連携」の合言葉でつながりたいと思っています。

今後は、街の活性化や市民健康増進への貢献に向けて、行政や地域保健、医療機関の力を借りながら、連携の仕組み（たとえばパス）や地域包括ケアネットワークづくりにも力を注ぎたいため、ご支援を頂きますようお願いいたします。

第1回 在宅医療研修会開催 報告

平成26年3月16日（日）

医療社会事業部

当院は岐阜県より地域医療支援病院在宅医療連携強化モデル事業の委託を受けています。この事業は、地域の医療介護福祉従事者に対し、在宅において必要となる医療に関する知識や技術の向上のための研修会の開催、地域住民を対象とした地域医療に関する市民講座の開催等を行うものです。

今回、テーマを「超高齢化社会を見据えた病院と地域の連携」と称し、地域医療研修センター（講堂）にて「第1回 在宅医療研修会」を開催しました。地域の医療機関・保険調剤薬局・訪問看護ステーション・福祉サービス公社・当院退院調整課の5施設からそれぞれの立場で発表をして頂きました。

医科歯科医師9名、薬剤師26名、看護師35名、看護福祉関係者等26名、総勢96名と多数の方の参加が得られ、活発な質疑応答がなされました。

超高齢化社会の到来により、療養や介護を必要とする患者はさらに増加すると考えられます。それに伴い、医療機関への通院が困難である等の理由により居宅で療養する患者も増大すると考えられ、そうした患者へ医療を提供する体制の構築が必要となってきます。

住み慣れた地域で必要な医療・介護サービスを受けつつ、安心して自分らしい生活を実現できる社会を目指すため、平成26年度もこの事業を継続していく予定です。



第15回 地域連携症例検討会 報告

平成 26 年 3 月 12 日 (水)

歯科領域における 慢性疼痛の治療について

歯科口腔外科部長 大久保 恒正



慢性疼痛の病態として、神経障害性疼痛（DPN）、心因性疼痛、侵害受容性疼痛、自発性疼痛など多岐に渡り、現在そのエビデンスが蓄積されつつあるDPNに対して抗うつ薬と抗けいれん薬がガイドライン化されており、三環系抗うつ薬（TCA）とセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（SNRI）のデュロキセチンを第一選択薬、選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）のエスシタロプラムとパロキセチンを第三選択薬と位置付けされております。歯科心身医学領域の疾患は、舌痛症・顎関節症（V型）・自己臭症の三大疾患と、非定型顔面痛、口腔異常感症、歯科治療恐怖症、口腔内セネストパチーなど多岐に渡り、多心理社会性疼痛が少なくありません。そこで今回は、歯科領域における慢性疼痛の症例に対して、デュロキセチンとエスシタロプラムを投与した症例を各々5例提示しました。多くの症例で比較的早期に症状が軽快しましたが、その鎮痛作用発現機序は複雑で、下降性疼痛抑制系を中心に、NMDA受容体遮断作用、イオンチャネル阻害・作動作用、GABA受容体機能増大作用、オピオイドやDA関連などが複合的・総合的に働いていることが予測されました。

COPD の地域連携 ～ 医療機器共同利用の勧め ～

内科（呼吸器科副部長） 細江 敦典



慢性閉塞性肺疾患（COPD）の当院への紹介は、肺癌や肺炎に比べて多くありません。COPDの診断はスパイロメトリーを用いた呼吸機能検査によって行われますが（1秒率70%以下）、診断だけでなく%1秒量による病期分類も行われます。重症度に応じて治療薬（吸入薬）の組み合わせの選択がなされます。治療の早期介入が1秒量低下を抑える報告があり、COPDの早期発見は重要です。

薬物療法以外に安定期のCOPDの治療には、禁煙、予防接種、呼吸リハビリ、在宅酸素療法（HOT）などがあります。当院での呼吸リハビリは、入院だけでなく外来通院プログラムも行っています。HOT導入に際しては、多職種が関われる病院の強みを生かして、HOT退院調整計画書を用いた教育入院としています。

早期診断と病期分類にはスパイロメトリーが必須ですが、全国的に開業医への機器の普及率は高くなく、また検査実施時の技術的な問題もあります。当院の医療機器共同利用を用いて呼吸機能検査の推進を図るため、現在利用申請書などを再作成中です。

地域の課題を考えた 新しい医療連携のかたち

岐阜大学大学院医学系研究科
内分泌代謝病態学教授

武田 純先生



岐阜県では、40歳以上の3人に1人が糖尿病あるいは予備軍という状況です。不適切な食習慣、運動不足、ストレス社会などが背景にあります。健診は早期発見を目指しますが、受診率の低さに加えて、早期診断されても継続通院が40%に満たないことも問題です。従って、合併症予防のために、生活習慣の改善、受診勧奨、診療科連携などについて、関連する職域が地域で協調して取り組むことが重要です。

高齢社会ではこれらの問題が顕著に現れます。罹病歴の長い患者が多く、重篤な合併症の有病率も高くなります。加えて、独居や老老介護、在宅医療、低血糖リスクなどによって、治療の選択に制限が生じます。インスリン注射が困難な場合は少なくありません。高齢化が進む飛騨・高山地域では、対策は喫緊の課題でしょう。広大な医療圏で専門スタッフが少ないことは地域の医療の質の向上を阻む要因です。介護士やケアマネの参画も求められます。

岐阜県糖尿病協会は、専門医を補完するために「登録医・療養指導医制度」を推進しています。昨年、チーム医療を普及させるために、非専門コメディカルを対象として「岐阜県CDEネットワーク」を設立しました。連携の輪があらゆる職種に広がるようになると、地域の難題にも対応できると期待しています。



第4回 糖尿病地域連携講演会 報告

平成26年3月2日(日)

歯原性菌血症と糖尿病

益田歯科医院院長

益田 英明 先生

口腔内には800種類以上の細菌がいると言われていています。その細菌が血液中に侵入した状態を歯原性菌血症といいます。歯原性菌血症は日常的に起きており、歯周炎などがあると細菌は常に体内に侵入します。

歯周病菌の毒素は血管内皮細胞に炎症を起こし、動脈硬化に関与するとともにインスリン抵抗性も惹起します。重度歯周病の場合は咀嚼でも菌血症が起きており、食事の度に細菌が体内に侵入しています。したがって糖尿病の方が歯周病を治療し細菌の侵入がなくなると、血糖コントロールも改善されるケースが多く報告されています。介入研究では重度歯周病の場合、HbA1cの改善効果は最大で1%程度であるとされています。

また歯周病や扁桃炎などの慢性炎症から細菌が血液へ侵入することで、別の臓器に障害(病巣感染)を起こすこともあります。血管のない臓器はありません。血管に細菌を入れないことは全身の健康につながります。

歯科疾患は菌血症の原因となるため、全身の血管を脅かす病気なのです。う蝕と歯周病の予防は、血管の健康を維持するための医療と言えるかもしれません。

糖尿病治療における薬剤師の現状

わに薬局 市庁舎東店

和仁 寿彦 先生

この地域で「医薬分業」という言葉を耳にするようになってすでに15年以上が過ぎているが、分業以前と大きく変化したことは「連携」ではないだろうか。

「地域医療連携」「病診連携」「薬薬連携」など最近では半数以上の講演会での話題の一つとなっている。

私は、街の薬局の「開局薬剤師」だが、ここ数年病院に勤務する「病院薬剤師」との連携「薬薬連携」に積極的に取り組んでいる。この取り組みは様々なところで成果をあげていると思うが、最近特に成果をあげているのが、高山赤十字病院に新設された「入院サポートセンター」との連携で、病院薬剤師と共に手術をうける患者さんの服用薬の管理である。以前は手術前に服用してはいけない薬を服用してしまい手術が延期になってしまうこともあったが、サポートセンターとの連携により回避できている。

しかしながら、院外処方箋で薬をもらっている患者さんが薬局で十分なサービスをうけているか不安なところもある。4回を数える高山赤十字病院で行われた「糖尿病地域連携講演会」で3年連続、講演の為のアンケートを市内の薬局に行っているが、その回答率が年々減少している。また、日頃行われる研修会や講演会等への出席もはっきりと分かれてきている。開局薬剤師による服薬指導に差が出てきているのではと懸念される。

このような状況を鑑みて、今回の講演会では、開局薬剤師に対し、「糖尿病療養指導士」の認定がもらえる程の自己学習を提案し、毎日の服薬指導に生かしていただきたいと考えた。我々開局薬剤師はその制度上「指導士」の認定を受けることができないが、知識を得ることは可能であり、患者さんへの指導内容を向上することは可能である。ところが、そんな我々に朗報があった。というか私が勉強不足であった。岐阜県では、「岐阜県CDEネットワーク」という制度があり、開局薬剤師も資格をとることができ、糖尿病医療において大切な療養生活を患者さんに指導するスタッフとなる。

この地域で、資格を得る為に必要な講演会や研修会が充実し、一人でも多くの「岐阜県糖尿病療養指導士」が誕生することを願い、医師を中心とした新たな「医療連携」が確立することを切に願う。

ペインクリニック外来開設のお知らせ

整形外科部長 前田 雅人

2月より第2・第4金曜日に岐阜大学の麻酔科疼痛治療科医師（飯田宏樹教授、竹中元康准教授 他）によるペインクリニック外来を開設しております。

これまで飛騨地域では麻酔科の専門医によるペインクリニック外来がなく、遠方まで出向いて治療を受けておられる患者様も多数いらっしゃいました。岐阜大学の麻酔科疼痛治療科のご厚意によりこの現状を打開するために専門外来を開設する運びとなりました。

慢性疼痛でお困りの患者様がございましたらご紹介頂くようお願いします。

開設日時：第2・第4金曜日 午前9時から11時30分（完全予約制）

場所：高山赤十字病院 整形外科外来

申し込み方法：地域連携課を通じてご予約下さい。

対象疾患：帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛、術後難治性疼痛、慢性頭痛、慢性の腰下肢痛、頸肩腕痛、等



人工関節センター開設のお知らせ

整形外科・人工関節センター部長 前田 雅人

医学の進歩により日本人の平均寿命は飛躍的に延びました。その一方で股関節や膝関節の痛みで生活に支障をきたしている人も増加しています。当院では20年以上前よりこういった悩みを抱える方に対して人工関節置換術を施行してきました。

この人工関節置換術は年々進歩をとげ、より安全に、短期間の入院で手術を受けられるようになりました。それに伴い、手術を希望される方も増加しています。

当整形外科ではこういった患者様のニーズに応え、この手術をより安心した環境で受けただけできるよう人工関節センターを立ち上げることにしました。

手術前の診察や相談、手術後のアフターケアまでこの人工関節センターで対応していきます。手術を希望される方はもちろん膝や股関節の痛みでお困りの方は相談だけでも結構ですので是非一度ご紹介ください。

外来開設日：毎週火曜日 前田

第1金曜日 山本

第3金曜日 喜久生

診療時間：午前9時から11時（完全予約制）

手術日：水曜日・金曜日

予約先：高山赤十字病院 TEL 0577-32-1111

整形外科・人工関節センター 内線 3100



放射線治療システム更新について

放射線科部



この度当院では、より質の高い放射線治療を提供し、地域の医療にこれまで以上に貢献できるよう、放射線治療システムの更新を行いました。

施設の改修工事、治療装置設置のため、長期間の治療休止で患者さんをはじめ関係者の皆様にはご迷惑をおかけし、大変申し訳ありませんでした。

いよいよ本年4月より新システムでの治療を再開いたします。

今回更新された放射線治療装置は強度変調放射線治療（IMRT）や、画像誘導放射線治療（IGRT）といった高精度放射線治療が施行可能な装置です。頭頸部や前立腺の治療における根治的な放射線治療を行うにあたって、IMRT、IGRTという技術は必須になると予想されており、これらが施行可能であることは、この地域の放射線治療の水準をより高めるものと期待されます。また、放射線照射装置を回転させながらIMRTを行うRapid-Arcという最新の治療技術も施行可能です。この照射法ではIMRTと比べ、より短時間の放射線照射で高い治療効果が得られ、患者さんの体への負担はこれまでの放射線治療よりも少なくすむため、高齢の患者さんの治療に有用であるといわれています。



新任医師の紹介

- ① 診療科・職名
- ② 氏名
- ③ 専門分野
- ④ 専門医・認定医
- ⑤ 診療に対するモットー & 自己紹介 など



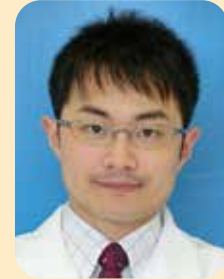
4月に12名の医師が赴任しましたので、ご紹介致します。



- ① 脳神経外科 副部長
- ② **野中 裕康** (のなか ゆうこう)
- ③ 脳神経外科
- ④ 脳神経外科専門医、脳卒中専門医、脳血管内治療専門医
- ⑤ はじめまして。4月からお世話になります。もともと大垣市の生まれで、こちらへ赴任の前は医局人事で静岡に5年近くいました。静岡は冬でも温暖で、雪が積もった風景を見たことがないという看護師さんもいます。3月下旬にこちらに来て、朝夕の寒さに驚いています。私は、国立循環器病センターのレジデントを3年間務めさせて頂いていた関係もあり、脳血管障害を専門としています。至らぬ点も多く、皆様にご迷惑をおかけ致しますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。



- ① 泌尿器科 副部長
- ② **菅原 崇** (すがわら たかし)
- ③ 泌尿器科全般
- ④ 泌尿器科専門医
- ⑤ 日赤病院は、長浜赤十字病院、岐阜赤十字病院に続いて3回目となります。高山は初めてなので色々教えてください。よろしくお願いします。



- ① 内科 医師
- ② **高橋 佳大** (たかはし よしひろ)
- ③ 糖尿病・内分泌
- ⑤ 岐阜赤十字病院より異動となりました高橋と申します。出身は新潟県で、こちらの雪国独特の雰囲気を少し懐かしく感じています。精一杯頑張りますので、宜しくお願い致します。



- ① 内科 医師
- ② **中村 みき** (なかむら みき)
- ③ 消化器内科
- ⑤ 1人1人の患者さんを丁寧に診察し、高山の医療に貢献していきたいと思っております。よろしくお願いします。



- ① 外科 医師
- ② **山崎 順久** (やまざき のぶひさ)
- ③ 外科一般・呼吸器外科
- ④ 外科専門医
- ⑤ 本年4月に大阪赤十字病院より高山に転勤してまいりました。赴任してまだ1ヵ月もたたず、いたらない点も多々あるかと思いますが、丁寧な診療をモットーにがんばりますのでよろしくお願いします。



- ① 産婦人科 医師
- ② **大塚 かおり** (おおつか かおり)
- ⑤ 医師5年目の大塚です。外来では主に妊婦健診を担当させて頂きます。出産は何度立ち会わせて頂いても感動的です。その素晴らしい出来事に向けて、少しでもお手伝いさせて頂けたらと思います。宜しくお願いします。



①眼科 医師

②桑山 創一郎(くわやま そういちろう)

⑤はじめまして。この度、名古屋市立大学病院より転属となりました眼科の桑山と申します。岐阜県民なので高山赴任となっても親近感が持て、何となく落ち着いた心持ちで臨めます。眼科医師としてはまだ2年目で、学ぶべき事がまだまだたくさんありますが、日々経験を積んで自己の研鑽に努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



①産婦人科 医師

②池田 沙矢子(いけだ さやこ)

⑤患者さん一人一人と真摯に向き合う医療を目指しています。宜しくお願いします。



①整形外科 医師

②後藤 篤史(ごとう あつし)

③一般整形

⑤平成23年に福島医大を卒業しました。大学時代にはスキー部に所属しており、高山で働けることを楽しみにしていました。まだまだ未熟で御迷惑をお掛けすることがあるかと存じますが、精一杯努力致しますので何卒宜しくお願い致します。



①外科 医師

②末次 智成(すえつぐ ともなり)

⑤高山赤十字病院での初期臨床研修を終え、引き続き外科で勤務することとなりました。少しでも患者さんのお力になれるよう頑張りますので、ご指導よろしくお願い致します。



①循環器内科 医師

②山内 明日香(やまうち あすか)

③内科

⑤今年度より当院後期研修医として勤務しております。循環器内科・内分泌内科を主に専攻する予定ですが、様々な疾患を抱える患者様自身を診、寄り添っていける医師になれば、と思っております。微力ながらも飛騨高山の医療に貢献できたらと思っております。御指導・御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



①内科 医師

②中村 晃久(なかむら あきひさ)

③内科

⑤高山赤十字病院にて初期臨床研修を終え、今年度より内科の後期研修医として勤務しています。まだまだ未熟者ではありますが、飛騨圏域の地域医療に少しでも貢献できたらと思っておりますので、ご指導よろしくお願い致します。

新任研修医の紹介

4月に7名の研修医が赴任しましたので、ご紹介致します。
どうぞ宜しく御願います。

いとう まさや
伊東 政也

にしわき たかゆき
西脇 崇裕貴

おおむら かずふみ
大村 一史

もり ちさ
森 千紗

くまがい のぶとし
熊谷 信利

たぐち きょうへい
田口 恭平

すぎ ともゆき
杉 朋幸

退任医師

内科医師	牧谷 光晴	3月31日付	脳神経外科医師	山内 圭太	3月31日付
外科医師	藤山 芳樹	3月31日付	外科医師	浅井 竜一	3月31日付
整形外科医師	田中 領	3月31日付	研修医(内科)	高桑章太郎	3月31日付
内科医師	鷹尾 賢	3月31日付	研修医(内科)	百瀬 崇	3月31日付
眼科医師	杉谷 和彦	3月31日付	研修医(内科)	阪 哲彰	3月31日付
泌尿器科医師	南館 謙	3月31日付	産婦人科医師	佐藤 香月	4月14日付
産婦人科医師	大塚 祐基	3月31日付			

平成25年度 第4回地域医療連携検討委員会の報告

標記委員会を2月22日(土)に開催いたしました。

地域医療連携検討委員会は、地域医療機関等からの要請に対応し、必要な支援を行えるよう定期的に開催される委員会です。

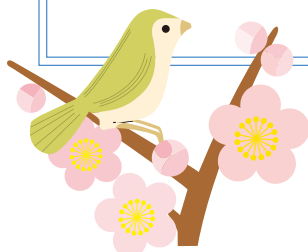
委員会では紹介率・逆紹介率、地域連携の現状などの業務実績や、岐阜県より委託を受けている地域医療支援病院在宅医療連携強化モデル事業について報告をいたしました。

意見交換では、発達障がい児の医療連携・在宅医療について委員の方から多くのご意見を頂きました。

編集後記

新年度を迎え、地域連携課に1名の職員が増員され7名体制となりました。今後とも地域医療機関の先生方との連携を密にし、患者さんの利便性を高め、さらに「かかりつけ医」を推進していきますので、今年度も変わぬご指導ご鞭撻をお願いいたします。

医療社会事業部 地域連携課長 牧戸 澄夫



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL: 0577-35-1880 FAX: 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ http://www.takayama.jrc.or.jp/